

令和 8 年度 第 1 回 浪江町環境審議会 議事録

■日時：2026 年 9 月 28 日（月） 13:30～15:00

■会場：浪江町役場本庁舎 4 階全員協議会

■出席者：（委員）五味会長※、沼田委員※、赤田委員※、鈴木委員、佐藤委員、前司委員

※はオンライン出席

（事務局）産業振興課 住民課

■次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - （1）報告事項
 - ① 浪江町環境基本計画事業報告
 - ② 浪江町の脱炭素施策の最新動向について
 - ③ 浪江町環境審議会 2 年間の振返りについて
- 4 閉会

■配布資料

次第

資料 1：会議名簿

資料 2：座席表

資料 3：浪江町環境基本計画事業報告

資料 4：浪江町の脱炭素施策の最新動向について

資料 5：浪江町環境審議会 2 年間の振返りについて

■議事録

1・2. 開会あいさつ	
事務局	ただいまから令和8年度第1回浪江町環境審議会を開催いたします。 まず、開会にあたって会長である五味会長よりご挨拶をいただきます。
会長	本日はお集まりいただき、ありがとうございます。 昨年度は、浪江町環境基本計画を策定することができました。委員の皆様には、多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今年度は、計画に位置付けた施策の進捗状況の確認と、環境に関する施策のご審議をお願いいたします。 また、本年10月末をもって委員の皆様の任期が満了となります。今回の審議会が、現体制で開催する最後の審議会となります。これまで町の環境に関するさまざまな事項についてご審議いただきましたことに、改めて感謝申し上げます。 本日は、これまでのご経験や専門的な知見を踏まえ、町の取組がより実効性のあるものとなるよう、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。
3. 議事	
事務局	それでは議事に入らせていただきますが、議事進行については会長である五味会長をお願いいたします。
会長	それでは次第に沿って進行する。 報告事項①浪江町環境基本計画事業報告について、事務局より説明をお願いしたい。
報告事項①「浪江町環境基本計画事業報告」	
事務局より資料3に基づき、浪江町環境基本計画の進捗状況について説明を行った。	
会長	事務局からの説明について質問等はあるか。
委員	質問特になし
報告事項②「浪江町の脱炭素施策の最新動向について」	
事務局より資料4に基づき、町の脱炭素施策の進捗について説明を行った。	
会長	以上の説明について質問等あるか。
前司委員	小野田取水場の年間電気使用量が大きく増えているが、これは今年以降も継続して電気使用量は増えていくことになるのか。
事務局	水道事業では施設の集約化を進めており、新たに小野田取水場を整備した。昨年度から稼働を開始した新規施設であるため、電気使用量が大きく増加したように見えている。今後も、同程度の電気使用量が見込まれる。
前司委員	なみえミライエナジーの自社電源について、今後、具体的にどのような電源を確保していくのか、分かる範囲で教えていただきたい。
事務局	今後、公共施設を対象としたPPA事業の実施を検討している。また、FIT制度の買取期間が終了した事業者との協議を進めるほか、GX戦略地域に選定されたことによる支援も活用しながら、さまざまな方法で電源の確保を進めていきたいと考えている。

前司委員	エネルギーセンターについて、どの程度の規模でエネルギーを供給する予定なのか。別地域では、マンションの非常灯にしか利用していない事例もあると聞いている。
事務局	複数の駅前施設を電力自営線で接続し、各施設で発電した電力を相互に融通することを予定している。公営住宅については、入居者が電力会社を自由に選択できることから、住戸への電力自営線による供給は行わず、共用部分のみを対象とする予定である。今後、なみえミライエナジーが低圧電力を取り扱えるようになれば、入居者が選択することで、なみえミライエナジーから電力を供給することも可能になると考えている。
前司委員	エネルギーセンターについては、防災の観点からも活用できる施設として整備していただきたい。
事務局	承知した
沼田委員	電力事業で得られた収益を地域振興等に活用するとのことだが、新エネルギー会社の収益は、全て地域振興等などに充てられるのか。地域振興・地域活性化の取組により、地元での雇用や技術の蓄積など、地域住民の生活にどのようなメリットがあるのか教えてほしい。
事務局	なみえミライエナジーは、現在、自社電源を保有していないため、電力の取次事業を中心とした最小限の事業運営を行っている。将来的には、自社電源の保有や視察の受入れなどに取り組み、そこで得た収益を地域活性化事業に活用することを目指している。その際には、地域経済の循環や新たな雇用の創出を図るとともに、従業員の地元採用も進めていきたいと考えている。また、エネルギーの地産外消にも取り組み、その収益を町民や町内事業者のエネルギー価格の面で還元していきたいと考えている。
沼田委員	エネルギーセンターの整備は町の事業なのか。また、整備に係る財源についても教えてほしい。
事務局	駅前では複数の公共施設を同時に整備しており、エネルギーセンターは、これらの施設で使用するエネルギーを供給するための施設として整備を進めている。エネルギーセンターは、町の事業として整備する施設である。 財源については、環境省や内閣府の交付金、過疎債など、複数の財源を組み合わせ整備を進めている。
報告事項③「浪江町環境審議会 2 年間の振返りについて」	
事務局より資料 5 に基づき、環境審議会 2 年間の取組について説明を行った。	
会長	事務局からの説明について質問等はあるか。 また、今回は 2 年間の取組を振り返る機会でもありますので、各委員からコメントをいただきたい。それでは、前司委員から順にお願いします。
前司委員	これまで事業者の立場から参加してきた。なみえ水素タウン構想に賛同し、事業にも参画しているため、水素については一定の知識があったが、それ以外の環

	境・エネルギー分野については学ぶ機会が多かった。委員の皆様と議論できたことを大変有意義に感じている。事業者として、その先の展開も見据えながら、今後も浪江町環境審議会において議論を深め、環境・エネルギーの分野で世界に誇れる浪江町となることを期待している。
鈴木委員	自然とのふれあいの推進について、浪江町には帰還困難区域が多く残っており、課題であると感じている。また、ごみ袋の仕様変更により、ごみの分別などがしにくくなったと感じている。エネルギー分野については勉強不足な部分もあるが、今後も皆様とともに取り組んでいければと思う。
佐藤委員	環境問題や脱炭素に対する住民の認識を、どのように高めていくかについて、住民代表の立場からも考えていきたい。移住者の増加に伴い、ごみステーションの管理をはじめとするごみ問題は、今後も環境施策における重要な論点になると考える。引き続き、審議会の議題として取り上げていただきたい。
沼田委員	福島大学水素エネルギー総合研究所のメンバーでもあることから、浪江町の取組を学びたいと考え、委員として参画した。大変勉強になった。また、浪江町環境基本計画の策定にも携わり、策定の過程を含めて学ぶことができた。 浪江町の環境施策には、国家プロジェクト規模の事業も多いと感じている。一方で、こうした取組を町民が十分に理解し、主体的に関わっているかという点も重要である。浪江町として、人材や技術を地域に蓄積していくことが必要であると感じる。
赤田委員	エネルギー政策などについて、多くのことを学ぶことができた。浪江町と弘前大学では、安全で快適なまちづくりに関する事業を進めている。その中では、情報発信やリスクコミュニケーションも重要であると考えており、今後も町と連携して取り組んでいきたい。
会長	会長として、私からも一言申し上げる。 浪江町は、水素分野において世界最先端の取組を進める町である一方、東日本大震災からの復興の途上にあり、現在も多くの帰還困難区域を抱えるなど、多くの課題がある。さまざまな視点から課題を捉え、多角的なアイデアを出し合ったことで、浪江町環境基本計画をより良いものにできたと感じている。 今後は、計画を実行に移していくことが重要である。町には、行政として手綱を緩めることなく、着実に取組を進めていただきたい。
会長	本日予定していた議事について、全て終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。
4. 閉会	
事務局	五味会長、議事の進行をありがとうございました。 それでは閉会にあたりまして、産業振興課長の蒲原よりごあいさつを申し上げます。
蒲原課長	産業振興課の蒲原でございます。今日は、町の環境施策について貴重なご意見を

	いただき、誠にありがとうございます。 委員の皆様には、10月末をもって任期満了を迎えられるまでの2年間、町の環境施策に関して多くのご意見をいただきました。特に、町の環境施策の基本となる浪江町環境基本計画の策定に当たり、さまざまな視点からご意見を頂戴しましたことに、改めて感謝申し上げます。今後は、計画を策定して終わりとするのではなく、環境基本計画や地球温暖化対策実行計画等に基づき、各種施策を着実に実施し、その実現に取り組んでまいります。また、今後は再生可能エネルギーに関する条例の制定に向け、委員の皆様からご意見をいただく機会もあると考えております。本日は、ご出席いただき、ありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。 以上を持ちまして、令和8年度第1回環境審議会を閉会いたします。